

提供年月日	平成30年7月26日(木)
担当部署	草津宿街道交流館

まだ誰も知らない本陣の姿が明らかに？

「草津宿本陣歴史資料調査」 を開始しました！



草津市教育委員会では、平成30年6月より、草津宿本陣に残されてきた歴史資料について、包括的・本格的な調査を開始しました。

今回の調査は、草津宿本陣に残されている歴史資料全体を対象とし、3年計画ですべての資料の目録を作成して、活用できるようにすることを目指しています。同時に、江戸時代から現在まで大切に守られてきた貴重な文化財を、将来にわたり保存していくことも目的としています。

◆「草津宿本陣歴史資料」とは

「田中七左衛門本陣」を営んだ田中家には、江戸時代以来、多くの歴史資料が保存されてきました。

この中には古文書だけでなく関札*や裱などの器物も含まれ、建造物と歴史資料が合わせて現存する充実した交通史関連資料として、全国的にも貴重な資料群であると評価されています。

*関札(せきふだ)

本陣や宿場の出入口等に掲げられた、木製・紙製の札。
現在、旅館の前などに掲示される「〇〇御一行様」と同様の役割を持つもの。



↑代表的な本陣関連資料「大福帳」。
本陣の休泊者や宿場を通行した人物から、田中家の奉公人の給金まで、本陣と宿場の経営にまつわる情報が記録されています。

◆調査の概要



↑未整理の古文書類。
内容を1点ずつ解説し、年代・差出人・材質、大きさやページ数などの詳細なデータをとります。

・調査対象

草津宿本陣歴史資料 総点数 約 8,600 点 (見込み)

うち、古文書資料約 5,000 点

関札・裱などその他約 3,600 点

・調査期間

平成30年6月～平成32年3月

※この調査は、「文化庁 地域活性化のための特色ある文化財(美術工芸品)調査・活用事業国庫補助金」の交付を受けて実施しています。

◆調査の目的



「草津宿本陣歴史資料」のうち、大福帳や関札をはじめとする重要な資料については過去に調査・分析が行われており、江戸時代の本陣や宿場の運営を知る上で貴重な資料となっています。

これに加え近年、相次いで多数の資料が発見され、新たな調査を行う必要が出てきました。すでに調査が行われた資料についても、今後の保存・活用のために改めて調査を行い、資料目録の作成などを行います。

当主が代々「七左衛門」を名乗った田中七左衛門本陣は、本陣経営の傍ら材木問屋を営み、草津宿の庄屋や問屋役人も務めていました。このため、草津宿本陣歴史資料には、参勤交代などの通行に関するだけでなく、宿場の運営や当時の人々の暮らしに至るまで、様々な資料が含まれているのです。この面からも、草津の歴史がさらに明らかになる新たな発見が期待できます。

調査期間中は「草津宿本陣 資料調査だより」(→別添資料)を定期的に発行し、成果を随時お伝えしていきます(草津宿街道交流館・史跡草津宿での配布のほか、ホームページで公開中)。

最終的な調査成果は調査終了後に報告書として刊行するほか、重要な資料はインターネットなどで公開して、皆様に広くご覧いただく予定です。

そもそも、「本陣」とは？

草津が宿場町として栄えた江戸時代、草津宿には二軒の本陣が置かれていました。このうち、江戸時代後期の建物が現存し、国史跡に指定されているのが田中七左衛門本陣、いわゆる「草津宿本陣」です。

「本陣」とは限られた身分の人々が利用する、道中の宿泊・休憩施設を指します。利用できるのは大名や旗本、皇族や勅使(天皇の使者)、公家などで、参勤交代制度の整備などに伴ってほぼすべての宿場に置かれました。

とはいえ公的に一律で整備された施設というわけではなく、各地の有力者が「本陣職」を拜命し、自分の屋敷に大名らを迎え入れる、というのが当初の形だったようです。その後、各本陣で休泊システムが整えられ、多くの人の旅を支えました。

草津宿本陣に残る記録にも、浅野内匠頭や吉良上野介、新選組、皇女和宮など、たくさんの歴史上の有名な人物が利用したことが残っています。

